

北九州モノレール『中期経営計画2020-2024』

令和2年5月13日
建設建築委員会資料
建築都市局都市交通政策課

1 策定の経緯

北九州モノレールは、2020年1月に開業35周年を迎えた。この間、安全・正確・快適な運行により、市民の足としての役割を果たしてきた。経営状況については、2期連続での経常黒字を計上したが、今後は、更なる沿線の人口減少や高齢化による乗車人員の減少、車両・変電所等諸設備の老朽化による設備更新など、より厳しい状況になると予測される。

これらの諸課題に備え、将来にわたって確固たる経営基盤づくりを行うため、新たな中期経営計画（2020-2024）を策定した。

2 「中期経営計画（2015-2019）」の取り組み結果

施策	内容
ICカード導入	・モノズゴカ導入
運賃値上げ	・各区分10円値上げ
ダイヤ改正	・朝ラッシュ6分間隔を7分間隔へ変更 ・夜間運行本数の増便と小倉発最終便(平日・土曜)を24時に延長
保有車両の削減	・10編成を9編成に1編成削減
インバウンド対応	・駅のナンバリング表示、駅名四か国語表示、英語車内放送
沿線活性化	・沿線の自治会や企業・大学等との連携強化 ・駅を中心とした賑わいづくり(エキマチ化)やイベント列車の拡充

※経営基盤の強化に取り組みだ結果、計画時の見込みより早期の2017年度に黒字化を達成

3 「中期経営計画2020-2024」の策定

- 計画期間…2020～2024年度
- 本計画のポイント

- ◇ 計画策定の前提として、利用者推計により**年1%の乗車人員減を見込む**。ただし、北九州市と施策を共有した沿線活性化策(エキマチ化や他交通機関、UR・JRA、学校等との連携)により、**実行ペースで乗車人員減を極力抑える**。
- ◇ 安全・正確な運行確保のため、**変電所や運輸管理システム等の更新を設備更新計画に基づき進める**。なお、2026年度からの車両更新に伴う大規模な資金調達に向け、**運賃値上げを含めた増収策や補助金獲得に向けた検討、さらには、現金残高不足に対する短期融資や減価償却費増大への対応などの検討等を行う**。
- ◇ 乗務員(運転士)の高齢化や採用抑制の影響等による中核人材の不足に備え、技術継承、有資格者の安定確保のため、計画的な採用計画を行う。特に**2025年度の大規模な補充に伴う補充を前倒しにより平準化を図る**。

(3) 重点施策と目標

重点施策	目標
① 輸送の安全と定時運行の確保	・ 重大事故ゼロ、5分以上の自責遅延ゼロ
② お客さま満足度向上	・ 顧客満足度調査の満足度80%以上
③ 乗車人員並びに収入増	・ 乗車人員計画(図1)・運輸関連収入(2019年度比3%増)
④ コスト管理の徹底	・ 各年度において、営業費用を営業収入内で設定
⑤ 人材の確保と育成	・ 育成体系の確立、採用の平準化
⑥ 車両更新へ向けての準備	・ 資金計画、車両仕様の確定

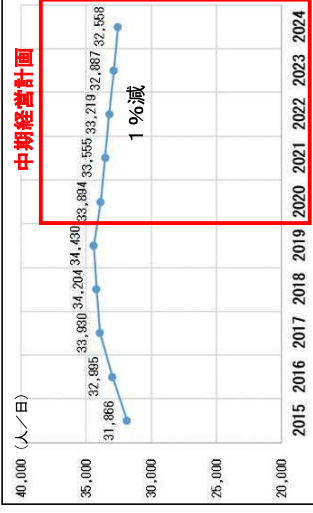


表1 経営数値目標

科目	実績 見込									
	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024			
運輸収入	2,127	2,144	2,105	2,084	2,063	2,042	2,021			
運輸雑収	201	204	210	210	210	210	210			
売上高	2,328	2,348	2,315	2,294	2,273	2,252	2,231			
営業費	2,302	2,332	2,296	2,323	2,250	2,211	2,230			
営業外収益	26	16	19	▲29	23	41	1			
営業外費用	77	48	44	44	44	44	44			
経常利益	12	11	11	12	12	12	12			
特別利益	91	53	52	3	55	73	33			
特別損失	56	0	0	0	0	0	0			
税引前純利益	66	1	38	34	29	45	53			
法人税等	81	51	16	▲31	26	28	▲20			
当期純利益	20	16	15	1	15	10	10			
当期純利益	61	35	1	▲36	16	18	▲25			

図1 一日の乗車人員計画

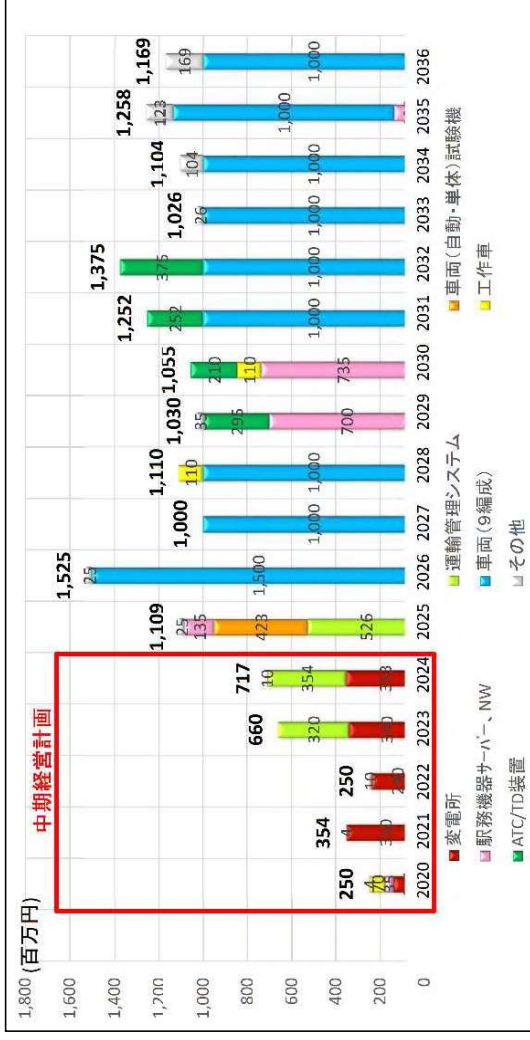


図2 今後の主な設備更新計画